

デザインアプローチによる地域エネルギーの未来像探索

Exploring the Future Vision of Regional Energy Through a Design Approach

ものづくり支援センター 高木 友史・万城目 聡

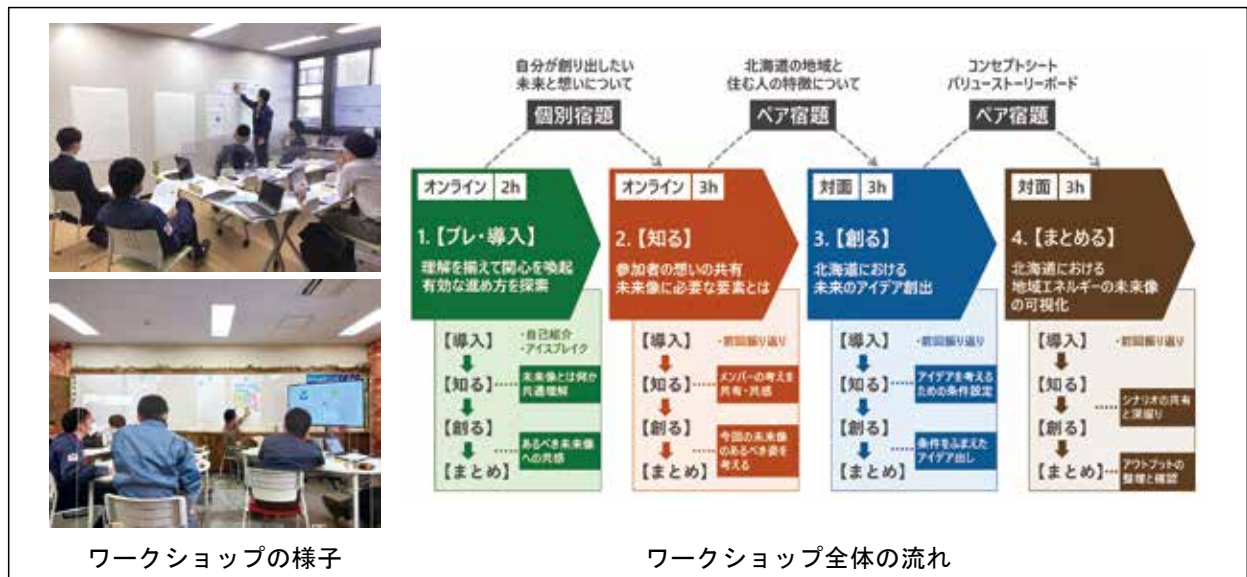
■支援の背景

北海道電力(株)総合研究所と道総研エネルギー・環境・地質研究所では、北海道の特性等を踏まえ、地域における持続可能なエネルギー需給システムの構築・実装・普及に向けて、双方が有する知見、技術情報を共有しながら、共同で取り組むべき課題の明確化、研究立案などに取り組んでいます。

そこで、研究テーマの探索前に北海道の地域エネルギーの未来像を探るため、各研究所の若手・中堅メンバーによるデザインアプローチによる共創ワークショップを企画・実施しました。

■支援の要点

1. 導入・知る・創る・まとめの4段階のワークショッププログラム基本構造
2. デザインのアプローチによる思考法・発想法の導入
3. 参加者自らの想いを尊重した納得感のある提供価値と具体的なアイデアの検討
4. 各研究所3名（計6名）の若手・中堅メンバー参加による月1回の共創ワークショップ（オンライン形式・対面形式）を計4回実施



■支援の成果

1. 社会課題から新たな価値観や将来像を形成する「ビジョンデザイン」や、問いから発想を促す「問いのデザイン」のアプローチを取り入れて、北海道の地域エネルギーの未来像を検討できました。今回のアプローチは、DXなど事業の将来構想を検討する場合にも活用できます。
2. 参加者にとって、デザインの思考法や発想法のアプローチを実際に体感し学ぶ機会となりました。
3. 今回の共創ワークショップにより、今後の研究会活動での研究テーマ探索に活用できる将来シナリオとシーンスケッチを作成し、北海道の地域エネルギーの未来像を可視化しました。

北海道電力(株)総合研究所
道総研エネルギー・環境・地質研究所